

にほん しゅうきょう  
日本の宗教

にほん げんししゃかい のうこうしゃかい  
日本の原始社会は農耕社会であった。

ひとびと しぜん ちから まえ むりよく  
人々は自然の力の前にほとんど無力だっ  
たので、せいさん しはい たいよう だいち みず  
生産を支配する太陽、大地、水  
をはじめ、つき やま しんりん とう かみ  
を、月、山、森林、等にカミがいる  
と想像した。

げんししんとう なり た ひとびと め  
ここに原始神道が成立した。人々は目に  
み なに かみ  
見えず、何をするかわからないカミを  
ふきみ さんざい おそ うやま  
不気味な存在として恐れ、敬った。

かみ じぶんたち まも  
そしてカミが自分達を守ってくれるよう  
に、またおこ わざわ  
に、又怒って災いをもたらさないように、  
かみをまつり、もの ささ  
かみをまつり、物を捧げた。

この習慣しゅうかんは今いまなお色々ないろいろ形かたちで続つづいてい  
ると言いえよう。

「古事記」こじきや「日本書紀」にほんしょきなどの文献ぶんけんを見みる  
と、これらの神神かみがみが当時とうじの人々ひとびとの心こころの中なか  
で、いかに生いき生いきと生いきていたかが知  
られる。

よろず 万かみの神なかの中ひでも日かみの神、天照大神あまてらすおおかみは国こく  
の統治者とうちしゃとして描えがかれ、これが皇室こうしつの  
祖先そせんと言いい伝つたえられている。

他方たほう、インドいんどに起おこった仏教ぶつきょうは、中国ちゅうごく、  
朝鮮ちょうせんを經由けいゆして、六世紀半ろくせいひなば頃ころに日本にほんに  
伝つたえられた。

とうじ ひとびと ぶっきょう むずか おし りかい  
 当時の人々は仏教の難しい教えを理解  
 え  
 し得たわけではなく、美しい仏像を拜む  
 うつく ぶつぞう おが  
 ことによって、現世の幸福を得、病気や  
 げんせ こうふく え びょうき  
 わざわ のが たいりく  
 災いから逃れようとして、この大陸の  
 あたら しゅうきょう う い  
 新しい宗教を受け入れたらしい。

かぎ ぶっきょう じゅよう ひかくてき  
 この限りにおいて、仏教の受容は比較的  
 ひょうめんてき かんかくてき  
 表面的・感覚的であった。

にほんこらい  
 しかし、そのためにかえって日本古来の  
 しんこう あいだ おお たいりつ お  
 信仰との間に大きな対立も起こらず、  
 じょじょ みるしゅう あいだ しんとう い  
 徐々に民衆の間に浸透して行ったもの  
 おも  
 と思われる。

その後、<sup>ご</sup>護<sup>ご</sup>国<sup>こく</sup>思想<sup>し</sup>を<sup>はた</sup>旗<sup>じ</sup>印<sup>る</sup>にか<sup>し</sup>か<sup>る</sup>げ<sup>る</sup>るよ  
 うにな<sup>ぶ</sup>った<sup>き</sup>仏<sup>こ</sup>教<sup>っ</sup>は<sup>か</sup>国<sup>こ</sup>家<sup>う</sup>(<sup>こ</sup>皇<sup>う</sup>室<sup>し</sup>)によ<sup>こ</sup>って  
 保<sup>ほ</sup>護<sup>ご</sup>され、<sup>こ</sup>国<sup>う</sup>家<sup>し</sup>宗<sup>き</sup>教<sup>ょう</sup>をも<sup>い</sup>言<sup>ち</sup>う<sup>い</sup>べき<sup>い</sup>地<sup>ち</sup>位<sup>い</sup>を  
 獲<sup>かく</sup>得<sup>とく</sup>して、<sup>だい</sup>大<sup>こ</sup>は<sup>っ</sup>国<sup>か</sup>家<sup>へ</sup>の<sup>い</sup>平<sup>わ</sup>和<sup>わ</sup>から、<sup>こ</sup>小<sup>い</sup>は  
 個<sup>こ</sup>人<sup>じん</sup>の<sup>ち</sup>治<sup>び</sup>病<sup>ょう</sup>や<sup>あん</sup>安<sup>ざん</sup>産<sup>き</sup>の<sup>き</sup>祈<sup>と</sup>禱<sup>う</sup>まで、<sup>す</sup>す<sup>べ</sup>て  
 僧<sup>そう</sup>侶<sup>りょ</sup>の手<sup>て</sup>で<sup>お</sup>行<sup>こな</sup>われ<sup>る</sup>るよ<sup>う</sup>にな<sup>っ</sup>た。

仏<sup>ぶ</sup>教<sup>つ</sup>には<sup>も</sup>も<sup>と</sup>と<sup>し</sup>宗<sup>し</sup>派<sup>ゅう</sup>とい<sup>う</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>も</sup>の  
 は<sup>そ</sup>存<sup>ん</sup>在<sup>ざい</sup>し<sup>な</sup>か<sup>っ</sup>た<sup>が</sup>、<sup>し</sup>次<sup>だい</sup>第<sup>だい</sup>に<sup>と</sup>特<sup>とく</sup>定<sup>てい</sup>の<sup>き</sup>教<sup>き</sup>理<sup>り</sup>  
 を<sup>か</sup>掲<sup>か</sup>げ<sup>た</sup>独<sup>ど</sup>立<sup>くり</sup>の<sup>し</sup>宗<sup>し</sup>派<sup>ゅう</sup>が<sup>た</sup>誕<sup>たん</sup>生<sup>じょう</sup>した。

最<sup>さい</sup>近<sup>きん</sup>、<sup>せい</sup>西<sup>よう</sup>洋<sup>よう</sup>でも<sup>かん</sup>関<sup>しん</sup>心<sup>しん</sup>が<sup>た</sup>高<sup>た</sup>ま<sup>っ</sup>て<sup>き</sup>来<sup>き</sup>て<sup>い</sup>る  
 禅<sup>ぜん</sup>宗<sup>しゅう</sup>も<sup>さま</sup>様<sup>ざ</sup>々<sup>ま</sup>な<sup>し</sup>宗<sup>しゅう</sup>派<sup>は</sup>の<sup>ひと</sup>一<sup>ひと</sup>つ<sup>で</sup>である。

ぜん よ が じっせん とお  
 禅はヨーガの実践を通して、即ち落ち着  
 いた姿勢しせいで、呼吸こきゅうを統制とうせいし、精神せいしんを統一とういつ  
 することによって、真理しんりに到達とうたつすること  
 を目指すものである。

じょうどしゅう あみだによらい しん ねんぶつ とな  
 浄土宗は阿弥陀如来を信じ、念仏を唱え  
 ることによって極楽ごくらくに往生おうじょうすることを説  
 く教えである。

じょうど 「ふつ す くに」  
 浄土とは「仏の住むきよらかな国」のこと  
 です。

おし じゅうせいきまつころ せいじ みだ  
 この教えは十世紀末頃から政治が乱れ、  
 生活せいかつも不安定ふあんていになったことが、奇しくも  
 仏教ぶつきょうの末法思想まっぽうしそうを裏付けることになり、  
 ひとびと せいしんふあんてい すく  
 人々の精神不安定を救うものとして盛ん  
 になった。

かんよう むね ぶっきょう にほんこゆう しんとう  
 寛容を宗とする仏教は、日本固有の神道  
 ゆうわ こんにち いた にほんじん  
 と融和して、今日に至るまで日本人の  
 しんこう きそ な  
 信仰の基礎を成している。

きりすときょう いちごよんきゅうねん ふらんすこ  
 キリスト教は一五四九年にフランスコ・  
 ざびえる かごしま き ふきょう はじ  
 ザビエルが鹿児島に来た布教したのが始  
 めで、ねっしん ふきょう じぜんじぎょう  
 めで、熱心な布教と慈善事業などによっ  
 ひとびと ころ きゅうそく ひろ  
 て人々の心をとらえ、急速に広まった。

にんげん かみ まえ みなびょうどう  
 しかし、「人間は神の前に皆平等であ  
 きりすときょう おし しゅくん  
 る」とするキリスト教の教えが、主君へ  
 ぜったいふくじゅう と ほうけんどうとく あいはん  
 の絶対服従を説く封建道徳と相反するこ  
 じゅうしちせいき はい どうじ  
 とから、十七世紀に入ると同時に  
 とくがわばくふ きんし きりすときょう  
 徳川幕府によって禁止され、キリスト教  
 とおる きび はくがい う  
 徒達は厳しい迫害を受けた。

きりすと きょう ふっこう めいじいしん あと  
 キリスト 教 の 復興 は 明治維新 後 の  
 おうべいしょこく せつしょく ま  
 欧米諸国との接触を待たなければならな  
 かった。

げんざい にほん けんぽう しんきょう じゆう  
 現在の日本では憲法によって信教の自由  
 みと とくてい  
 が認められ、ある特定の宗教を国家が  
 ほご きんし でき  
 保護したり、禁止したりすることは出来  
 なくなつた。

きんだいか にほん にほんこらい しんとう  
 近代化された日本にも日本古来の神道や  
 ぶっきょう にほんじん せいかつ ふか ねざ い  
 仏教は日本人の生活に深く根差した生き  
 つづ  
 続けている。

そして、おお にほんじん かみ ほとけ どうれつ  
 そして、多くの日本人は神と仏とを同列  
 かんが しんとう ぶっきょう しゅうきょう  
 に考え、神道と仏教のどちらの宗教  
 ぎれい さんか  
 儀礼にも参加している。

たと しんねん いわ しんちく たてもの  
 例えば、新年えを祝ったり新策の建物の  
 あんぜん いの けっこん たんじょう いわ ごと  
 安全を祈ったり、結婚・誕生のお祝い事  
 しんとう もち  
 には神道が用いられる。

たい ぶっきょう ほう そうしき ぼん  
 これに対して仏教の方は、葬式やお盆・  
 ひがん ぼさん し じん れい なぐさ  
 お彼岸の墓参など、死んだ人の霊を慰め  
 ぎょうじ むす っ  
 る行事と結び付いていると言えよう。

ほんらいにほんじん あいだ おこな  
 しかしこれも、本来日本人の間に行わ  
 しゅうかん ぶっきょう むす っ  
 れていた習慣が仏教と結び付いて、  
 いっそうけいしき ととの みかた  
 一層形式を整えたものだという見方もある。

ほか じゅきょう ちゅう こう しそう ちゅうしん  
 この他、儒教は忠・考の思想を中心に  
 にほんじん どうとくかん おお えいきょう あた  
 日本人の道德観に大きな影響を与えている。

このように、<sup>にほんじん</sup>日本人の<sup>しゅうきょう</sup>宗教は<sup>さまざま</sup>様々な  
<sup>しゅうきょう</sup>宗教が<sup>てきぎま</sup>適宜<sup>あ</sup>混ざり<sup>あ</sup>合い、<sup>どくとく</sup>独特の<sup>しゅうきょう</sup>宗教  
<sup>けいせい</sup>を形成しているのである。